



カタカナ言葉

「適切なアセスメントに基づくエビデンスを踏まえたガバナンスが求められる。」

先日、ある研修会で講師が話していた一説です。

妻に、今日の夕飯に何を食べたいかを聞かれて、「ミーはトゥデイのディナーで、グリルド ミートをイートしたい。」と答えたとしたら、妻は怒るか笑うか、どちらかでしょう。しかし、冒頭の研修会での話も、私には似たようなものにしか思えません。なぜ「適切な客観的評価に基づく明確な根拠を踏まえた組織の責任ある管理運営が求められる。」と言えないのでしょうか？滑稽でさえあります。

幕末の開国以来、日本人は外来語を積極的かつ柔軟に取り入れてきましたが、古く中国から伝わった漢字による熟語である「漢語」も、日本固有の発達を遂げた「和語」と区別されて広義では外来語に含まれますし、一般的に外来語と言われる西洋諸国由来の言葉（「洋語」）も、古くから日本語の中に取り入れられてきました。

外来語には古くから日本語の中に溶け込み定着しているものも多く、スペイン語由来の「おじや」ロシア語由来の「イクラ」ポルトガル語由来の「合羽」フランス語由来の「ズボン」などの物を指す名詞が中心ですが、オランダ語由来の「おてんば」やポルトガル語由来の「おんぶ」ロシア語由来の「カンパ」ドイツ語由来の「シュプレヒコール」など状態や動作を表すものもあり、あげればきりがありません。

さらに、近年も、カタカナを用いた表記により日本語の中に外来語が手軽に取り入れられ、英語由来の「ストレス」「リサイクル」「リスク」・・・フランス語由来の「ニュアンス」「レジュメ」・・・など、「既に十分社会に浸透していて理解に支障がないと考えられるもの」や「同義の短い日本語への言い換えが難しい場合」などに使用することで、表現の幅を広げたり効率的に伝えたりすることに役立ってきました。

このように外来語によって日本語が豊かになってきたことは、歴史的に見ても間違いないことではありますが、そのことと、近年、特に英語を中心とした外来語を目にしたたり耳にしたたりする機会が増えたことによる私が感じる違和感や、冒頭に述べた研修会の事例等とは、区別して考えなければならぬと思っています。

日本人の外来語に対する寛容さと柔軟性はこれからも持ち続けるべきだとは思いますが、専門用語や学術用語・ビジネス用語などが、一部の発信者やマスコミによって一方的に常用化され、注釈なしに氾濫している現状を憂慮しています。各分野で必要な面もあり、「言葉の乱れ」として一概に批判すべきではありませんが、日本語を豊かにするような外来語だとも言い切れず、一部の、その分野に思いの強い方々による「他への配慮を欠く傲慢な使い方」ではないかと感じることもあります。

言葉や文章とは本来、相手を想像しながら、その「相手に伝えるため」という目的で使われるものです。発言や発信する機会が比較的多い私たち教職員も、外来語に限らず、言葉や文章による表現が「受け取る相手への配慮を欠く送り手側の自己満足」になることのないよう、気をつけなければならぬと思っています。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2023年2月3日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）